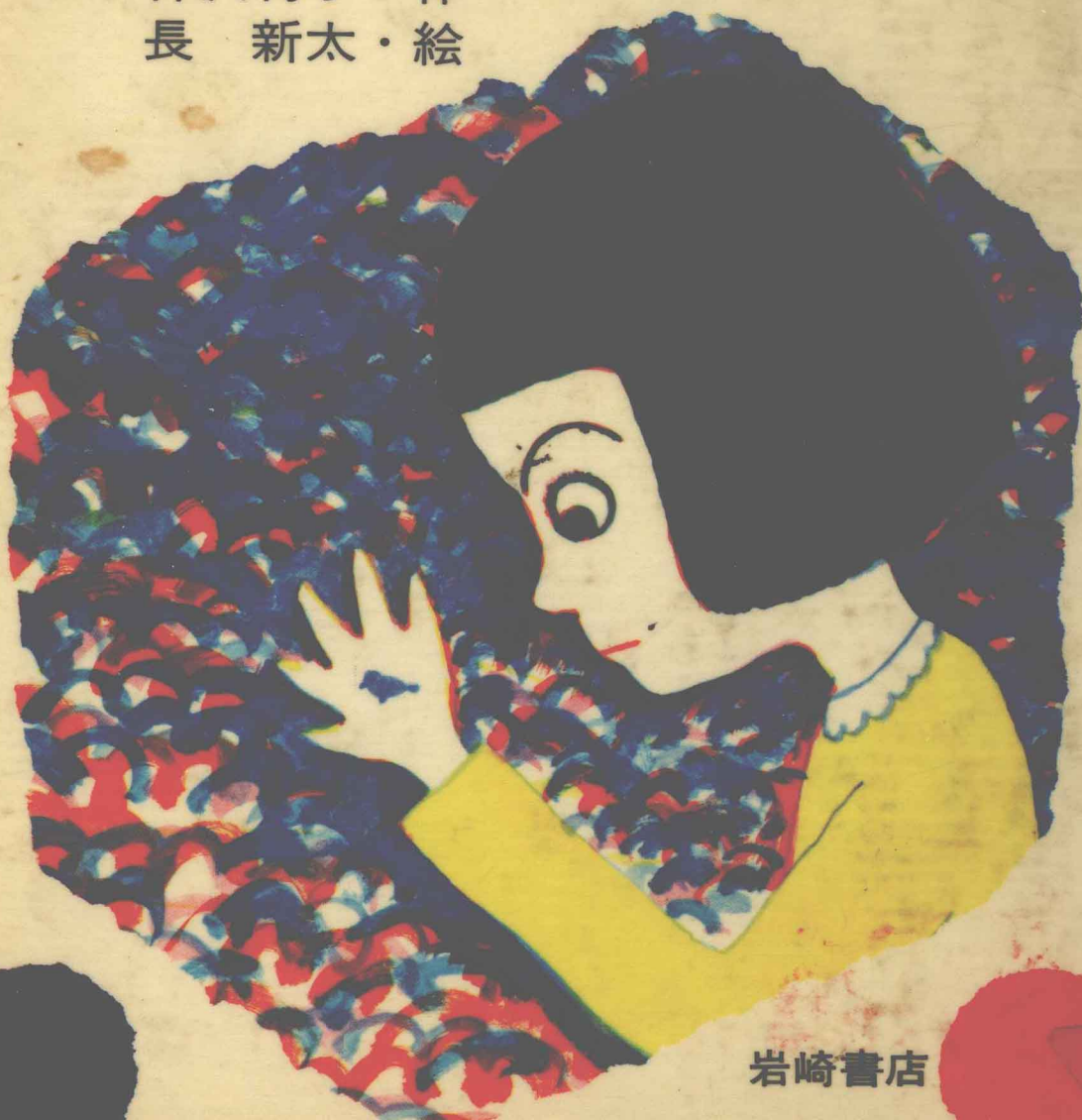


日本の幼年童話10

空いろのことり

神沢利子・作
長 新太・絵



岩崎書店

日本の幼年童話10

空いろのことり

神沢利子・作

岩崎書店 1975

P124 21cm/NDC 913

日本の幼年童話10

空いろのことり

1972年4月28日 第1刷発行

1975年1月30日 第5刷発行

著者／神沢利子

発行者／森山甲雄

発行所／岩崎書店

東京都文京区水道 1-9-2 〒122

電話 03・812・9131

振替 東京 96822

活版印刷／第一印刷株式会社

オフセット印刷／清水印刷紙工株式会社

製本／小高製本工業株式会社

© Toshiko Kanzawa, 1972

(分)8393(製)511072(出)0360

神沢利子^{かんざわとしこ}・作
長新太^{ちやうしんた}・絵

空 いろのこ

日本の幼年童話10
岩崎書店

日本の幼年童話 10 空いろのことり もくじ

空いろのことり……………5

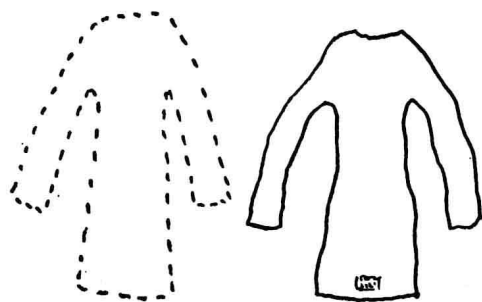
ミキとシャツのはなし……………21

あさ・ひる・ばん……………31

夜のできごと……………45

ひろことけしゴム……………59

ウーフはおしっこでできてるか？……………69



キミちゃんとかっぱのはなし……………85

タンポポのうた……………99

解説^{かいせつ}|| 作家^{さつか}と作品^{さくひん}について……………関^{せき} 英雄^{ひでお}

装幀^{さうざん}|| 宮川源太郎

表紙・口絵・さし絵|| 長新太



どくしや

読者のみなさんへ

このシリーズ『日本の幼年童話』は、日本の近代、現代の創作童話の中から、小学校初級～中級程度の読者を対象に、現代の子どもに興味をひき、児童文学として朽ちない生命をもつ作品を精選して、おもに作家別に編集したシリーズです。

幼年童話という形式や枠にとらわれず、作品の質を第一に、広い範囲から自由な作品を選挙をおこなったところに、このシリーズの特色があります。父母、教師の方たちにも、あわせてご愛読をえられれば幸いです。

へんしゅういん
編集委員

かんただみち　せきひで　お　まえかわやす　お
菅忠道／関英雄／前川康男

さく　しやしょうかい
作者紹介

神沢利子（かんだわ・としこ）

1924年（大正13年）福岡県に生まれる。父の転勤にともない、札幌、カラフトで幼時をすごした。昭和15年、文化学院美術部に入学して後、文学部に転部。文学部を卒業。昭和30年ごろから、童謡や童話を書きはじめ、同年、最初の創作『ちびっこカムのぼうけん』を出版した。おもな作品に『クマの子ウーフ』『銀のほのおの国』などがある。

空^{そら}
いろのことり



いっしょに林^{はやし}までさんぽにいこうってやくそくしたのに、パパは
まだおしごとです。

大きなつくえで字^じをかいています。

「はやくおしごとすまないかなあ」

ゆうこは、くまのおもちやのプーにミルクをのませたりして、ま
っていました。

プーはおなががいっぱいになったので、えほんにもたれてねてし
まいました。

ゆうこは、パパのおへやにはいっていききました。すると、パパは
まだ、しろいかみをひろげてペンをはしらせていました。ゆうこの
ほうをみないで、

「あとでね」

といました。

ゆうこは、くしゃんとしたかおになりました。すると、それがわ

かったのか、パパはちょっとかくのをやめました。

「インクのなかにことばがたくさんはいつてね、はやくかいてつてせかすから、パパとてもまにあわないんだ」

「ほんと、パパ、インクのなかにおはなしがはいってるの？」

ゆうこは目をまるくしました。

「そう……」

だからごめんね、というように、パパはゆうこのかおをみました。それから、またペンをはしらせました。

そして、ゆうこがずーっとまっていたのに、おむかいにきたパパのともだちといっしょに、でかけてしまいました。ママはおつかいにでていきました。

ゆうこはつまらなくて、プーのおしりをさっきからもう、三べんもたたきました。

「おいたばかりする子は、もうしりません」

プーをおいて、パパのへやへいってみました。さっきまでパパが
すわっていたいすのうえに、のっかってみました。大きなつくえの
うえには、本とはいざらと、インクびんがならんでいます。

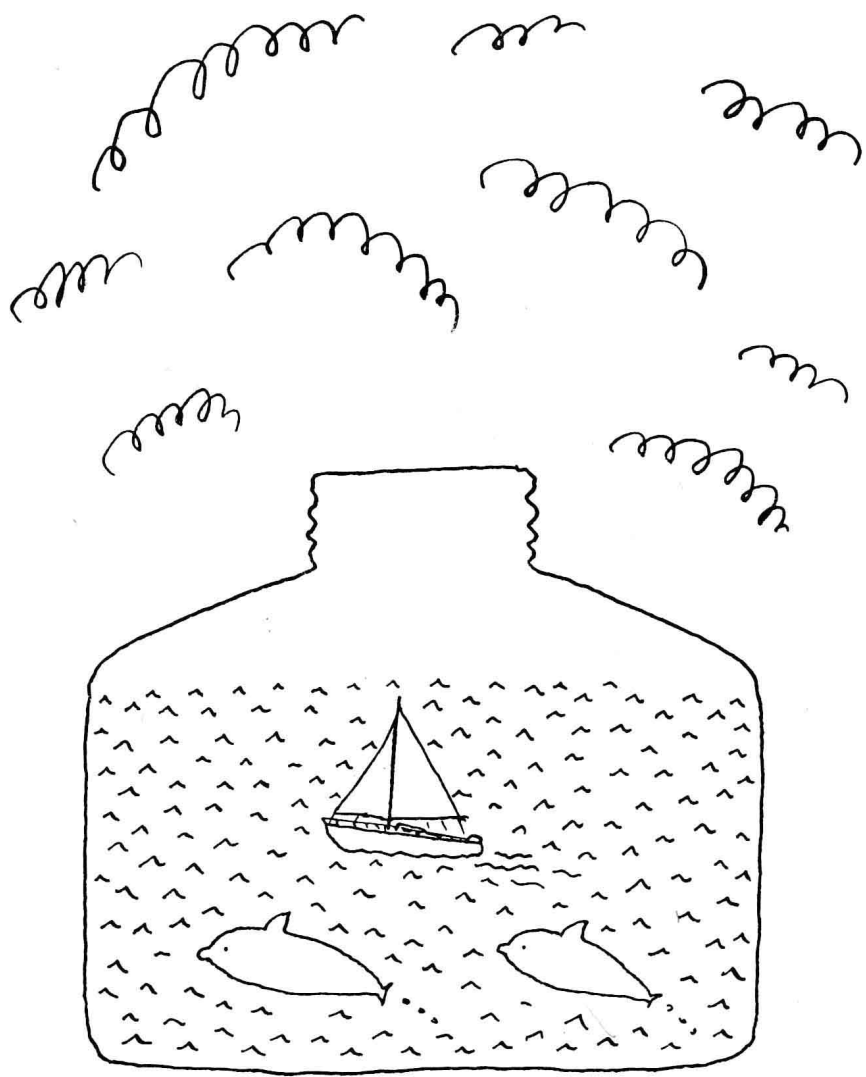
「パパ、このなかに、ことばがはいってるっていった。どんなこと
ばかしら」

インクびんのふたをとってみました。

まあ、なんてあおい……まるで海のようないろです。インクにつ
まっているおはなしは、海のおさかなや、ヨットのおはなしかしら。
ゆうこは、もうせん、パパとママと三人でいった海のことをおも
いだしました。

「波のおはなしかしら、ちゃぷーん、ちゃぷーんって」
ゆうこは耳をすませました。

けれど、いくらたってもインクはなににもいいません。だまりこく
っているだけです。



「いじわる。パパにはうんとおしゃべりしたくせに、どうしてだまってるの」

ゆうこはくやしくなって、インクびんをゆすりました。ちゃっぷん！

波のおとがしたとおもったら、あおいしぶきが、ゆうこのてのひらにとびこんできました。

てのひらからとんで、本のうえにこぼれました。ゆうこはあわて、ちりがみでインクをふきました。

でも……本にはあおいしみがついてしまいました。すぐかけていて、せんめんじょでハンカチをぬらしてくると本をふきました。インクをいじっちゃいけないって、いつもママからいわれていたのに……。

ゆうこはせんめんじょで、手をあらいました。せっけんをつけて、ハンカチもよくよくあらいました。でも、やっぱり……あおいし

はおちません。

いじわるなインク！

ゆうこはなきそうになって、手をこすりました。まっしろなせつ
けんのあわが、ぷくぷくうまれて、せんめんきいっぱいにあふれま
した。

「もう、とれたかしら」

しろいあわがすべりおちた、てのひらのなかには、インクのしみ
が小さなとりのかたちをしてのこっていました。

「だめだわ」

ゆうこは、むねがきゅーんとなりました。おうちにかえって、マ
マもパパも、ゆうこのインクのしみをみつけるでしょう。

それから、パパの本ほんについたうすあおいしみも……。

そうおもったら、なみだであたりがぼうつとなってしまいました

……。

どこかで

びるりるりる

小さなこえがしました。

てのひらが、びりりとしたようです。

びるりるりる

また、こえがしました。きれいなことりのこえです。

てのひらがこそばゆくて、みてみると、まあ、ゆうこのてのひらのなかで、小さな小さな空いろのことが、はばたいではありませんか。ゆうこはびっくりしてしまいました。ちょうちよりも小さな空いろのことは、くびをのばして、

びるりるりる

と、なきました。それから、ほうせきのようにひかる羽をぱたぱたとうごかしました。さんかくにとがった小さなくちばしをひらきま



した。

ぴー りりりりり

こんどはまえよりも、おお大きな
いて、りようほうの羽はねをひろげま
した。

「あ、にげちゃだめ」

ゆうこはあわてて、もうかたっ
ぽの手で、そつとふたをしました。
てのひらのなかで、ぱたぱた、ぱ
たぱた、ことりがはばたきました。
そとへとびたとうとしているの
かもしれません。

「だめ、だめ。とんでっちゃだめ
よ」

こんな小さなかわいいことりは、ママだってパパだって、みたことがないにちがいありません。

「かごはないかな。そうだ、せっけんばこにいれとこ。そこにあながあいてるからいいわ。それから、なにかゆっくりさがすの」

ゆうこは、手をそうつとむすんで、かた手で、せっけんばこを、せんめんきでゆすぎました。

こぼこぼゆすぐと、しろいあわがぷくぷくうまれて、もりあがりました。

「さ、ここにおはいり」

ゆうこは、せっけんばこのなかにするりと、ことりをいれた……つもりだったのに、ことりは、ぱたぱたはばたいて、あわのなかに、すいこまれるようにきえてしまいました。

「あっ、あおいとりがとんできた」

あわのなかから、かわいいこえがしました。

「王女^{おうじょ}さまのさがしてたことりだよ。ばんざーい。とうとう、めったんだ」

「どこをさがしてもいなかったのにね。よかったなあ」

だれかがこたえました。

「うふふふ。これで王女^{おうじょ}さまのごきげんが、やっとなおるよ。王女^{おうじょ}さまったら、こないだのパーティではおどりすぎてさ」

「しんじゅのくびかざりが、きれちゃってねえ。ぼくたちみんなで、こぼれたしんじゅをひろうのに、たいへんだったねえ」

「ほんとさ、やっそこさだったよねえ。だいたい王女^{おうじょ}さまったら、なき虫^{むし}のおこりんぼで……」

まあ、だれがおしゃべりしてるんでしょ。

ゆうこはびっくりして、あわをみつめました。せんめんきにもりあがったあわたちは、くるくるいそがしそうにまわったり、ぶちぶちぷくぷく、まばたきしたり、あかやあおや、きれいなじいろに